

五々收印刷
六月十六日配達

田中先生の著作を
紹介する
新刊の
『小説の
研究』
が
出版
された
こと
を
告
げ
る
に
あ
ら
ま
す
。

生意氣新聞條報

這回官の許可を得て、發兌す當社の新聞の、自らと稱る生意氣名目、その段落と題目は、他の新聞と體裁を變へ、政事を議する御殿場や、互に見初め馴染て、人目を忍ぶ幌の内、其同車の道行振、石部金吉願を解き、衆の平内臍を結る。風來四方の流風遺傳の招牌赫やく諸座お譲り、まづ顔見世の初登場、序幕は乃ち詩文章、長短二歌も連伴も、稗史小説フィクションス、傳奇雜劇ブリーの類、義太夫節から派分せし、富木清元常盤津や、新内一中河東節、故きと温る謠曲今様、意氣な端唄もひつくるめ、其起原よりなまでの、沿革風調作例、或は現今名の高き、先生方の小傳、遺す漏す書盡し、又は新作新著述の、結構段落布置、抑揚つ換轉る、過渡結尾の廉々を、秃筆擽て傍觀評論、第二段目の書畫の論、借書への鐘鐸草書では、張芝の腕の立始め、其兩人の兩腕を、一人で兼一王羲之が、古今未曾有の大手腕之を承繼ぐ、歐陽詢顔真卿は、借書の首長、張旭懷素は、草書の巨擘、又本邦での空海や、任理貫之を始と、和漢古今の名人上手、歴世人も乏かろそ、書又は諸君熟知の、南北宗の二あり、北は李思訓父子より、傳へて宋の兩趙氏、夫から馬遠夏珪と也、鈎研法の精采緻密、南は洒落、王摩詰、其法のよる帳瑤荆浩、關郭董巨米氏父子元の四大家、至る迄神韻雅致で當りをとり、本邦畫家の據るところも、南北二宗に過ぎざれど、土佐や狩野や雲谷四條、是等は北の流派にて、近來南を宗として一家をなすもの少なからず、加之歐洲に、紀元千百余年代より、流行いたせし油繪と、千七百九十六年、獨乙國のアロイスガ、發明せたる石版畫の、本邦支那に流傳せしより、一種の畫風を添得たり、今其起原と流派と、古今の沿革論説や、或は現在名人の、小傳教授法、一々擧る悟入の捷徑、第三段の耳に聽き、心に感ずる音律の、今昔も雅も俗も、清樂管樂おしなべて、呂律の起原曲度の、緩急急長短、その節奏の妙用で、人れ心の頑癖と、融和ぐる五音の效驗、之を詳細に論述し、又は古昔の名人と、現今の上手、發明を、隨即耳食談、第四段目の演史家説話家淨理演劇の諸藝、藝ころかこれ何れの道も心の配り氣のつけか、聲の緩急體勢、度をとづる、こさは、人と感ずる妙用なり、素より名人上手の技藝も、五分でも辨強はなきづなれど、傍眼で視れば萬一に、不審におもふ處もあり、又は數年の工夫を費し、發明せざる妙處でも、聽客と看客の眼識の、どまりぬどころも無きにあらず、夫を一々評判し、殊に演劇の一道は、其全局の脚色から、戯棚の結構道具立、被服の好尚に至るまで、西鶴其積八文舎の、目指を藉りぬ別眼を、やとひて登記する評判記第五段目の閑靜に、香茶插花棋將棋類、其正眞の味を、宗匠方や、好事家の、説を聞くを、掲載て、陪話の名代人、第六段に至りては、家屋の建築法園庭行植、其木石の配置や、又は盆栽文房具の、好尚も隨て庖丁の切れ味見する割烹法、衣服の流行髪飾、持物提物懷中物まで、見聞に隨ひ評論する、微養澤な衣食住、第七段の前文も、擧る所の詩文書畫、香茶插花棋將棋類、其會席の名と場所と、日子刻限出席の、先生方と宗匠の、姓氏を一々報道し、勾欄の座の名と狂言題目と、俳優の姓氏役割と、開場と閉場の其日子、演席の席の名場所日子、出席人の姓氏か、演史説話淨瑠璃の、題目をかかひす報道し、其他古器古書畫類、盆栽庭石花卉樹木、新編新形の繪染地、持物提物小道具類、庖丁の利く割烹等、其職業の家の名と、場所を報知せる一覽表、此七段の題目の、文稿は諸大家諸名人、好事の雅君同好の、知音は勿論辨髮や、赤髯社會の先生より、有價なものを買出し、程能く組織目先を變へ、卸價直に賣出す、字體の平假名眞片假名、漢の文字には、極訓點、兒女輩も解し易く、餘蘊な時々畫を挿み、價は總に金壹錢、廉價々々ど御評判、近き勿論遠方より、郵便ハガキの注文書、投書の尊稿山の如く、洪庇で問もあく人並、銀座あたりへ投夥と、いふべきところを、徹と執拗て、別に閑地歩を占めるよふ、ヤンと居て乞ふこと支りり

六月二十二日

初號發兌

東京第一大區三小區

神田佐柄木町三拾一番地

生意氣新聞社

本年八月... 大分

大分... 印刷... 大分

印刷... 大分... 印刷

印刷... 大分... 印刷

印刷... 大分... 印刷

印刷... 大分... 印刷

印刷... 大分... 印刷

印刷... 大分... 印刷

印刷... 大分... 印刷

印刷... 大分... 印刷

印刷... 大分... 印刷

印刷... 大分... 印刷

印刷... 大分... 印刷

印刷... 大分... 印刷

印刷... 大分... 印刷

印刷... 大分... 印刷

印刷... 大分... 印刷